

---

# 昼休みの屋上

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昼休みの屋上

### 【Nコード】

N0146K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

純情チエリーボーイが昼休みの屋上で愛しの先輩を待っている。  
さてさてどうなることやら。

僕は、先輩とお弁当を食べたくて屋上で待っていた。  
屋上で待ち合わせなんだ。  
でもなかなか来ない。

僕は昨日、先輩に告白した。

先輩は僕の思いに応えてくれた。

でも今日来てくれないということは、やっぱりダメなのかなあ。

もう腹ペコすぎて、くらくらしてきた。

四時間目は体育だったから、今日は特にひどい。

でも一人で先にお弁当を食べていたら、よくない。

それに、先輩と色々話しながらお弁当を食べたほうが、きっとおいしいだろうな。

そんな甘い空想をしていると、空腹を忘れてしまうよ。

でも、昼休み終了のチャイムが鳴ってしまった。

僕の頭が真っ白になった。

悲しくて食欲もどこかに行ってしまった。

授業なんてもうどうでもいい。

やっぱり僕じゃダメなのかな・・・。

午後の授業は、すごく長く感じた。

放課後になっても、気持ちがモヤモヤして苦しかった。

僕は勇気を出して、先輩の教室へ行ってみた。

先輩はいなかった。

僕、置いて行かれた？

一緒に帰る約束だったのに。

先輩に避けられているのかなあ。

僕が、がつくりしていると、先輩の友達が寄ってきた。

「君の彼女なら、今日は休みだよ。どうも君に告白されて、浮かれて熱が出たみたいだよ。」

一緒に帰る約束も、お昼を屋上で食べる約束も、昨日したものだった。

先輩も僕もケータイを持っていないので、すれ違いが起こったんだ。なあんだ。嫌われたわけじゃなかったんだ。

安心したら腹ペコが帰ってきた。

おかえり。腹ペコ。

ご飯を食べたら、頭に血が巡って、いいことを思いついた。

先輩の家にお見舞いに行こう。

きつとびつくりするだろうな。

でも、僕は一番大切なことに気づいてしまった。

先輩の家がどこにあるか知らない！

仕方ないから、手紙を書いて先輩の机の上に入れておいた。

気持ち先走って、字が汚くなってしまった。

手もふるふるしている。

内容は僕と先輩だけの秘密。

僕は先輩の机に、「早く元気になってくださいね。僕、待ってますから。」と、つぶやいて帰った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0146k/>

---

昼休みの屋上

2011年1月28日07時15分発行